

薬だっ 知識

「風邪に葛根湯」とよく聞きますが、葛根湯は発汗療法に使われる漢方薬の一つです。漢方では、風邪、インフルエンザだけでなく感染症の初期に、発汗療法が用いられます。1800年前に書かれた漢方の原典「傷寒論」には、発汗療法に用いる代表的な処方として、葛根湯以外に、桂枝湯、麻黄湯が掲載されています。

発汗療法は汗を出す治療法です。病原体が感染し発病したとき、体は体温を上昇させて病原体を攻撃します。この熱が上がりきるまでの間は寒気があり、体を温めると速やかに一定の体温に達します。それ以上体を温めても、その熱は汗となり体温は上がりません。汗を出しながら数時間体温を高く保っている状態は下がって病は治ります。葛根湯を飲めば風邪が治ると勘違いしている人が多くいま

体力、症状で使い分け

す。しかし、体温を高め発汗させるなければ風邪は治りません。風邪に限らずインフルエンザでも、まず体を温めて発汗させることで、病原体をある程度殺せ、後の治療が軽くなります。

麻黄湯は強力な発汗剤で、発熱があつて寒気があり、無汗で発汗しにくい人に用いられます。桂枝湯は、寒気は軽く、布団を覆って寝ていると温まってしまうと汗が出るような人に用いられます。葛根湯は、麻黄湯と桂枝湯との中間位の病状の人に用いられます。しかし、高齢者、心不全の人、低血圧症、冷え症

の人などには発汗療法はお勧めできません。体力の無い人は感染症のとき、闘病力が弱いために発熱しません。そして、無理に発汗させると、体が弱ってしまいます。その場合は麻黄附子細辛湯で少しだけ発汗させて対応します。



漢方薬は体調や症状によって使い分けよう

2018(平成30)年1月16日掲載